院生研究活動状況一覧

2017年１月１日から2017年12月31日までの間に発表されたもので，
本人より申告されたもののみを記載した。

《教育基礎学専攻》

小山田建太（教育社会学／共生教育学）

〈論文〉

・小山田建太「社会資源としての地域若者サポートステーションの検討―事業の変遷に見るワークフェアの理念―」『筑波大学教育学系論集』第41巻第２号，2017年３月，pp. 63－75.

〈総説・科研報告書等〉

・小山田建太「通常学校において「障害のある子とクラスで一緒に勉強する」生徒が持つ社会認識の探索」飯田浩之・桜井淳平編『「共生」を実現する教育の実証的検討―「生徒調査」の結果より―（平成26～28年度日本学術振興会科学研究費助成事業 研究成果報告書）』筑波大学共生教育学（教育社会学）研究室，2017年３月，pp. 99－108.

〈学会発表〉

・長創一朗・小山田建太・高橋智子・津多成輔「「共生」を実現する教育の実証的検討―教員の「共生・共生教育」に関する意識調査の結果から―」日本高校教育学会第25回大会，筑波大学，2017年７月.

・小山田建太「ワークフェア政策下での支援に関する考察―地域若者サポートステーション支援職員の支援観に着目して―」福祉社会学会第15回大会，日本社会事業大学，2017年５月.

川本太郎（教育哲学）

〈共著〉

・川本太郎「古代・中世の教育思想」伊藤潔志，相馬伸一，松永幸子，松田智子，友野清文，杉山直子，渡部明，歌川光一，竹中烈，有馬知江美，田中直美，濱元伸彦，他10名『哲学する教育原理』2017年３月，保育出版社，188頁，13－17頁.

島埜内 恵（比較教育学）

〈論文〉

・島埜内恵，「小学校教育課程改革の特徴と論点―2016年中教審答申と2017年学習指導要領改訂案を中心に―」，『パブリック・エデュケーション・スタディ』第７号，2017年３月，17－26頁.

・島埜内恵，「フランスにおける教育課程改革の動向―『共通基礎』と外国語教育に焦点を当てて―」，『教育制度学会研究』第24号，2017年11月，192－200頁.

〈学会発表〉

・島埜内恵・園山大祐，「統合高等審議会報告書（1991～2013年）にみる移民のフランス的統合（6）

―教育施策の対象と学校の使命の変化に着目して―」，日本社会学会，東京大学本郷キャンパス，2017年11月４日．

白岩伸也（日本教育史）

〈論文〉

・白岩伸也「現代日本における「学校」概念の成立過程に関する一考察―学校教育法第１条の条文化と田中耕太郎の思想に注目して―」『パブリック・エデュケーション・スタディ』（専修大学教育政策研究室）第８号，2017年９月，61～74頁．

・白岩伸也「戦後初期における旧軍関係教育機関出身者への施策―「非軍事化」と「民主化」の動向とその射程に着目して―」『日本の教育史学』（教育史学会）第60集，2017年10月，45～57頁．

・白岩伸也「旧軍関係教育機関出身者をめぐる中等・高等教育機関の対応―戦後初期における転入学措置の展開過程に注目して―」『筑波大学教育学系論集』（筑波大学人間系教育学域）第42巻第１号，2017年10月，13～25頁．

〈学会発表〉

・白岩伸也「総力戦体制下の海軍飛行予科練習生―制度的位置づけとその変化に注目して―」教育史学会第61回大会，岡山大学，2017年10月８日．

〈その他　受賞など〉

・人間総合科学研究科 TF 優秀賞受賞，2017年２月．

関内偉一郎（教育制度学）

〈論文〉

・関内偉一郎「才能教育カリキュラムモデル U-STARS～PLUS に関する一考察―才能教育におけるマイノリティ・アクセス問題に着目して―」『カリキュラム研究』（日本カリキュラム学会）第26号，2017年３月，pp. 43－54.

・関内偉一郎「ASD 才能児を対象とした学習支援に関する研究― 2E 教育の理論と実践的応用―」『SNE ジャーナル』（日本特別ニーズ教育学会）第23巻，2017年10月，pp. 100－118.

〈学会発表〉

・関内偉一郎「才能教育のユニバーサル化と教育機会の公平性―アメリカ合衆国のマイノリティ・アクセス問題に焦点を当てて―」日本比較教育学会第53回大会，東京大学，2017年６月24日．

・関内偉一郎「アメリカ合衆国における特別ニーズ教育の展開―才能教育のユニバーサル化に焦点を当てて―」日本教育学会第76回大会，桜美林大学，2017年８月27日．

・関内偉一郎「ASD 才能児に対する学習支援の可能性― 2E 教育の実践を通して―」日本特別ニーズ教育学会第23回大会，2017年10月15日．

・関内偉一郎「アメリカ才能教育における一般教員の役割の変化―通常教育との近接・融合化の動きに着目して―」日本教育制度学会第25回大会，2017年11月11日．

〈その他　受賞など〉

・筑波大学学長表彰，2017年３月16日．

髙野貴大（学校経営学）

〈編著書〉

・髙野貴大「前文／総則」時事通信社出版局編『ひと目でわかる！小学校「新学習指導要領」解説付き新旧対照本』2017年６月，A4 版，時事通信社，343ページ，18－34ページ．

〈学会発表〉

・浜田博文，安藤知子，山下晃一，加藤崇英，大野裕己，髙谷哲也，照屋翔大，朝倉雅史，髙野貴大「新たな学校ガバナンスにおける「教育の専門性」の再定位（2）」日本教育経営学会，茨城大学，2017年６月10日．

・髙野貴大「アメリカの教員養成における Teacher Residency プログラムの位置」日本教育経営学会，茨城大学，2017年６月11日．

張　信愛（学校経営学）

〈論文〉

・張信愛「韓国における相談教師制度に関する研究―導入背景と変遷過程及び現状―」『学校経営学論集』（筑波大学学校経営学研究会）第５号，2017年２月，24～36頁．

〈学会発表〉

・張信愛「韓国の学校における「相談教師」の役割に関する研究－「相談」と「教育」の関係をめぐる認識に着目して」日本教育経営学会第57回大会，茨城大学，2017年６月10日．

※張信愛「日本における学校教育相談体制の現況と課題」韓国教育学会年次学術大会，韓国忠南大学，2017年６月24日．

※Jang Shinae, The Innovation of Teacher Training in Japan: Focused on International Baccalaureate Teacher Training Courses, 2017 Secondary Education Institute's International Conference, Kyungpook National University, Korea, 1 December 2017.

〈その他　受賞など〉

・韓国教育学会年次学術大会，ポスター発表奨励賞，2017年６月24日．

留目宏美（学校経営学）

〈編著書〉

・留目宏美「第６章 生活と安全 1. 交通安全 2. 自然災害対策 3. 防犯対策 4. 応急手当 5. 職業生活と健康」「第７章 社会と保健 3. 共生社会の実現」増井晃編著『大学生活と健康―見直そう日々の暮らし―』2017年３月，第１版，上越教育大学出版会，127，pp. 84－103, 118－121.

・留目宏美「第２章 第５節 学校健康教育における「21世紀を生き抜くための能力」の「思考力」の捉え方」上越教育大学大学改革戦略会議ワーキンググループ編『「思考力」を育てる―上越教育大学からの提言１―』2017年６月，第１版，上越教育大学出版会，439，pp. 363－369, 378－381.

・留目宏美「第２章 第５節 学校健康教育における「21世紀を生き抜くための能力」の「実践力」の捉え方」上越教育大学大学改革戦略会議ワーキンググループ編『「実践力」を育てる―上越教育大学からの提言２―』2017年12月，第１版，上越教育大学出版会，391，pp. 313－323, 330－333.

〈論文〉

・留目宏美「養護教諭の役割期待の変容と組織参加の形態―1990年代以降の学校組織と養護教諭の関係再編をめぐる指向性」『学校経営研究』（大塚学校経営研究会）42巻，2017年４月，pp. 48－69.

〈学会発表〉

・小河原慶子，留目宏美「養護教諭の健康相談に関する経験学習の実態―ライフラインメソッドを用いたインタビュー調査を通して―」，日本学校健康相談学会第13回学術集会，杏林大学，2017年３月26日．

・山上恵美，留目宏美「健康教育における養護教諭の思考過程に関する研究―小・中学校養護教諭へのインタビュー調査の分析を通して―」，第14回日本教育保健学会，東北福祉大学，2017年３

月26日.
・留目宏美「学校組織内部における教職員間のコミュニケーションの実態と課題―養護教諭を対象とした質問紙調査の分析結果から―」日本教育経営学会第57回大会，茨城大学，2017年６月11日.
・下地成美，留目宏美，増井晃「就学援助に対する養護教諭の認識と申請に係る組織体制」，第46回新潟県学校保健学会研究発表会，アトリウム長岡，2017年12月２日.

中村映子（学校経営学）

〈論文〉

・中村映子「小学校若手教員の学級経営改善のためのアクション・リサーチの意義と可能性―職能発達を促進する機能に着目して―」『学校経営学論集』（筑波大学学校経営学研究会）巻５号，2017年２月，37－50頁.

〈学会発表〉

・中村映子「小学校の学級経営における若手教員の職能発達プロセスに関する研究―教育実践者としての自律性の形成に着目して―」日本教育経営学会，茨城大学，2017年６月11日.

寝占真翔（教育行政学）

〈研究ノート〉

・寝占真翔「いじめ問題における多機関連携に関する予備的考察」『筑波大学教育行財政学研究室紀要（平成28年度）』2017年２月，59－68.

橋田慈子（生涯学習・社会教育学）

〈編著書〉

・橋田慈子「障害者の地域における自立を支える親の役割」手打明敏・上田孝典編『〈つながり〉の社会教育・生涯学習』2017年３月，東洋館出版社，139－150.
・橋田慈子「第６節 音楽の改訂のポイント解説＋吹き出し解説付・新旧対照表」時事通信出版局編『ひと目でわかる！小学校「新学習指導要領」解説付き新旧対照本』2017年７月，時事通信社，174－187.

〈論文〉

・橋田慈子・川田幸夫「地域における『共生・共育』実践の再評価―国立市公民館『コーヒーハウス』の取り組みを事例に―」『障がい者生涯学習支援研究』創刊号，2017年３月，22－27.
・橋田慈子「〈修士論文概要〉知的障害者をめぐる社会的排除の問題と解決主体の形成に関する研究」『茗渓社会教育研究』第８号，2017年10月，150－154.

〈総説・科研報告書等〉

・橋田慈子「君津市における社会教育職員の研修制度」『茗渓社会教育研究』第８号，2017年10月，56－60.

〈学会発表〉

・正木遥香・大村隆史・橋田慈子「『生活に困難を抱える人々』をめぐる社会教育の現状と課題」日本社会教育学会６月集会，東京農工大学，2017年６月.
・丹間康仁・竹井沙織・小宅優美・橋田慈子「高校のない山間へき地出身者の進路選択と地域認識―学校統廃合を経験した子どものケーススタディ―」日本教育学会第76回大会，桜美林大学，2017年８月26日.
・橋田慈子「英国における親集団の学習活動の成立史―障害者運動との関係から―」日本社会教育

学会第64回研究大会，埼玉大学，2017年９月16日．
・橋田慈子「内なる差別意識を課題化する「親」の学習活動の成立と展開」障害学会第14回大会，神戸学院大学，2017年10月27日．

〈その他　受賞など〉
・平成28年度　筑波大学大学院　人間総合科学研究科長賞受賞，2017年３月．

本多　舞（教育行政学）

〈研究ノート〉
・本多舞「国際バカロレアの理念からみるグローバル人材育成の意義―クルト・ハーンに着目して―」『平成28年度筑波大学教育行財政学研究室紀要』2017年２月，pp. 69－76.
・本多舞「国際バカロレア MYP 音楽の授業から考察するアクティブ・ラーニング」『国際理解教育』（日本国際理解教育学会）Vol. 23，2017年６月，pp. 75－79.

〈学会発表〉
・Mai Honda “What you need to succeed as IB school in Japan” International Baccalaureate Global Conference 2017，パシフィコ横浜，2017年３月30－31日．
・本多舞「国際バカロレアにおける国際理解教育―クルト･ハーンに着目して―」日本国際理解教育学会第27回研究大会，筑波大学，2017年６月４日．
・本多舞「一条校による国際バカロレア普及に関する一考察―導入の背景と課題に着目して―」日本国際バカロレア教育学会第２回全国大会，武蔵野大学，2017年９月２日．

牧瀬翔麻（教育行政学）

〈論文〉
・牧瀬翔麻「教育行政の広域化に関する法制ならびに事例の性質の変容―教育事務の共同処理に着目して―」『筑波大学教育行財政学研究室紀要（平成28年度）』2017年２月，pp. 38－51.
・牧瀬翔麻「小規模市町村教育委員会における民主性の確保に関する試論―教育行政を補強する水平的補完と垂直的補完の視点から―」『筑波大学教育学系論集』（筑波大学人間系教育学域）第41巻第２号，2017年３月，pp. 49－61.

〈総説・科研報告書等〉
・牧瀬翔麻・新里眞男・酒井英樹「諸外国の小学校英語の実施状況」国立教育政策研究所『小学校英語教育に関する調査研究プロジェクト最終報告書』2017年３月，pp. 196－277.
・Shoma Makise “Local Educational Administration System in Japan” National Institute for *Educational Policy Research (ed.) Education in Japan,* pp. 1–15, April, 2017, web journal.

〈学会発表〉
・牧瀬翔麻「高校再編にかかる政策形成過程の教育ガバナンス―鹿児島県立楠隼中高一貫教育校新設の事例分析―」日本教育政策学会第24回大会，京都女子大学，2017年７月１日．

松原　悠（教育制度学）

〈論文〉
・松原悠，斎藤未夏，石津朋之，大山貴稔，佐藤まみ子，新村麻実，野村浩二「筑波大学中央図書館ラーニング・コモンズにおける大学院共通科目『ザ・プレゼンテーション』の実施」『大学図書館研究』（国公私立大学図書館協力委員会・大学図書館研究編集委員会）107号，2017年12月，pp. 1703-1－1703-11.

〈学会発表〉

・吉田塁，栗田佳代子，○松原悠「プレ FD プログラム受講の効果に関する質問紙調査の質的分析」第23回大学教育研究フォーラム，京都大学，2017年３月19日．

《学校教育学専攻》

泉　貴久（社会科教育学）

〈編著書〉

・金田章裕・泉貴久・岡橋秀典・小野有五・佐藤廉也・白岩孝行・日原高志・松橋公浩・松原宏・石川裕彦ほか『地理Ａ』2017年２月（2016年３月文部科学省検定済教科書），Ｂ５版，東京書籍，207p

・泉貴久「カラメア湾」ほか（ニュージーランド南島76の地名について解説）竹内啓一総編集，熊谷圭知・山本健兒編集幹事，秋山元秀・小野有五・熊谷圭知・中村泰三・中山修一編集『世界地名大事典１アジア・オセアニア・極Ⅰ〈アーテ〉』2017年11月，A4 変形版，朝倉書店，1248p.

・泉貴久「トイトイズ湾」ほか（ニュージーランド南島98の地名について解説）竹内啓一総編集，熊谷圭知・山本健兒編集幹事，秋山元秀・小野有五・熊谷圭知・中村泰三・中山修一編集『世界地名大事典２アジア・オセアニア・極Ⅱ〈トーン〉』2017年11月，A4 変形版，朝倉書店，1192p.

〈論文〉

・中村洋介・泉貴久「第13回国際地理オリンピック北京大会報告」『地理月報』（二宮書店）548号，2017年１月，pp. 17－19.

・泉貴久・大谷誠一「2017年度科学地理オリンピック日本選手権―二次・三次選抜試験を中心に―」『地理』（古今書院）62巻６号，2017年６月，pp. 102－108.

・永田成文・金玹辰・泉貴久・福井朋美・藤澤誉文「エネルギーをテーマとした地理 ESD 授業」『地理』（古今書院），62巻９号，2017年９月，pp. 100－105.

・泉貴久「地理歴史科特設科目「社会科学入門」の概要と授業実践の取り組み」『専修大学松戸中学校・高等学校紀要』（専修大学松戸中学校・高等学校）第15号，2017年10月，pp. 87－110.

・泉貴久・大谷誠一・小河泰貴「第14回国際地理オリンピックベオグラード大会報告」『地理』（古今書院），62巻12号，2017年12月，pp. 88－95.

〈学会発表〉

・泉貴久・金田啓珠・山本隆太「システムアプローチの見方・考え方を用いた地理授業実践」日本地理学会（春季学術大会・一般発表），筑波大学，2017年３月28日．

・泉貴久「市民性育成を視野に入れた「地理総合」のあり方―年間学習プランと身近な地域学習の授業実践プランの提案―」中等社会科実践研究会（全国公開シンポジウム・報告），武蔵大学，2017年９月２日

・山本隆太・阪上弘彬・泉貴久・田中岳人「システムアプローチによる「自然と人間の関係」を総合的に考える地理教育実践」日本地理学会（秋季学術大会・ポスター発表），三重大学，2017年９月29日，30日．

〈その他　受賞など〉

・泉貴久「第14回国際地理オリンピック大会報告」『日本地球惑星科学連合ニュースレター』（公益社団法人日本地球惑星科学連合）第13巻４号，2017年11月，p. 12.

・『地理Ａ指導資料』『地理Aワークノート』（いずれも東京書籍）の編集協力．

・「授業で使える10分映像集」（JICA地球ひろば）における学習指導案の作成協力．（https://www.

jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/video/index.html）
・泉貴久「地理オリンピックを受験してくれた石見地区の高校生諸君へ」『島根県高等学校地歴・公民科教育研究協議会石見地区部会通信　ルックストン』（島根県高等学校地歴・公民科教育研究協議会，第10号，pp. 35－40.

伊藤哲章（理科教育学）

〈編著書〉

・伊藤哲章「生物現象における幼児の知識体系」大髙泉編『理科教育基礎論研究』2017年 6 月，A5版，協同出版，367頁，110－124頁.

〈論文〉

・伊藤哲章「幼稚園・保育所における生き物飼育に関する保育者の視点」『教材学研究』（日本教材学会）第28巻，2017年 3 月，135－142頁.
・伊藤哲章・柴田卓・齋藤朋子「幼児期の科学教育に関する保育者の意識―サイエンス・プロセス・スキルに着目して―」『郡山女子大学紀要』第53集，2017年 3 月，265－276頁.
・柴田卓・伊藤哲章・他 5 名「保育者養成校における地域連携に関する研究―学生の学びと地域貢献に着目して―」『郡山女子大学紀要』第53集，2017年 3 月，207－224頁.

〈学会発表〉

・伊藤哲章・柴田卓・他 6 名「保育者養成校における地域連携に関する研究」日本保育者養成教育学会，白百合女子大学，2017年 3 月 5 日.
・伊藤哲章・星野朋子「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する研究－幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に着目して」日本理科教育学会東北支部，山形大学，2017年11月 3 日.
・伊藤哲章「大学生の生活科学習への思いについての調査研究―小学校教員養成の学生を対象として―」日本科学教育学会研究会，宮城学院女子大学，2017年12月 2 日.

〈その他受賞など〉

・日本理科教育学会東北支部・東北理科教育賞受賞，2017年11月.

川上若奈（道徳教育）

〈論文〉

・川上若奈「『家庭博物館』誌の出版方針と道徳教育の要請」，『筑波大学道徳教育研究』（筑波大学道徳教育研究会），2017年 3 月，pp. 63－84.

〈学会発表〉

・川上若奈「テオフィル・ゴーチエにおける美的感覚の育成」日本道徳教育学会，千葉大学，2017年 7 月.
・川上若奈「ゴーチエの「芸術のための芸術」思想における道徳観」フランス教育学会，放送大学東京文教学習センター，2017年 9 月.
・川上若奈「日本とフランスにおける道徳教育に関する比較研究　―言語・文学教育に着目して―」日本倫理道徳教育学会，筑波大学東京キャンパス，2017年12月.

勘米良祐太（人文科教育学）

〈論文〉

・勘米良祐太，松崎史周「児童作文における「修飾関係の不具合」の分析」『浜松学院大学学習支援センター紀要』8，2017年 3 月，pp. 1－12.

・勘米良祐太「中学校教授要目改正（明治44年）における領域「作文」設定の要因」『国語教育史研究』17，2017年３月，pp. 48－55.

〈学会発表〉

・勘米良祐太「大正期から昭和前期にかけての文法教育の変容―文の成分の取り扱いに着目して―」日本読書学会，林野会館，2017年７月30日.

菊田尚人（人文科教育学）

〈論文〉

・菊田尚人「保育者養成課程における「日本語表現」での振り返り活動について―学期末レポートの記述に着目して―」『埼玉純真短期大学研究論文集』（埼玉純真短期大学）第10号，2017年３月，pp. 45－51.

〈学会発表〉

・菊田尚人「日本作文の会における「文筆活動法」の教育的機能―「1962年度活動方針」以前の「作文法」との比較を通して」全国大学国語教育学会，福山市立大学，2017年11月５日.

久保園梓（社会科教育学）

〈編著書〉

・久保園梓「第２章第５節　生活」時事通信出版局編『平成29年３月告示小学校学習指導要領完全対応　ひと目でわかる！小学校「新学習指導要領」解説付き新旧対照本』207年６月，時事通信社，343頁，159－168頁.

・久保園梓「第２章第８節　家庭」時事通信出版局編『平成29年３月告示小学校学習指導要領完全対応　ひと目でわかる！小学校「新学習指導要領」解説付き新旧対照本』207年６月，時事通信社，343頁，203－214頁.

〈総説・科研報告書等〉

・久保園梓「小規模小学校における複式学級の現状と課題―新潟県粟島浦小学校社会科を中心に―」井田仁康，「社会科教育学特講」調査報告，『地域と教育』第16号，筑波大学博士課程人間総合科学研究科学校教育学専攻，2017年８月，115頁，37－57頁.

〈学会発表〉

・久保園梓「「子ども・若者の声」を育成する市民性教育の実践方略―米国イリノイ州シカゴ市を事例に―」公民教育学会，東海学園大学，2017年６月24日.

・久保園梓「「子ども・若者の声」に基づく市民性教育の理論と実際―米国イリノイ州シカゴを事例に―」日本社会科教育学会，千葉大学，2017年９月16日.

〈その他〉

※Azusa, Kubozono., The background and Features of Citizenship Education to Encourage Young People's Empowerment in the United States: Focus on "Action Civics". 一般社団法人日米協会主催「アメリカ研究者の集い　2017」，国際文化会館，2017年10月２日.

小林岳人（社会科教育学）

〈編著書〉

・小林岳人「市区町村別人口密度　県西地域で著しい増加」千葉地理学会編著『地理から学ぼう　ちばの魅力　おもしろ半島ちば』2017年11月，千葉日報社，264ページ，30－31ページ.

・小林岳人「県北西部の市町村域の変遷　小学校名に残る旧村名」千葉地理学会編著『地理から学

ぼう　ちばの魅力　おもしろ半島ちば』2017年11月，千葉日報社，264ページ，108－109ページ．

〈論文〉

・小林岳人「GIS は地理的な見方・考え方を導く」『新地理』第65号，2017年 8 月，122－124ページ．

・小林岳人「高等学校における部活動と地理教育」『房総地理』（千葉県高等学校教育研究会地理部会会誌）第68号，2017年11月，８－23ページ．

〈学会発表〉

・小林岳人「地理学習の視点から見たオリエンテーリングの学習の体系化について」日本地理学会2017年春季学術大会，筑波大学，2017年 3 月28日(火)．

・小林岳人「GIS ソフトウエアで主題図を作成し発表する授業―地理的な見方・考え方の育成―」地理空間学会第10回大会，筑波大学，2017年 7 月 1 日(土)．

・小林岳人「地理教育における地図学習としてのオリエンテーリング」日本地図学会2017年定期大会，慶應大学日吉キャンパス，2017年 8 月 9 日(水)．

・小林岳人「オリエンテーリングと主題図作成―OCADとArcGIS―」Ｇ空間 EXPO2017，日本科学未来館，2017年10月13日(金)．

・小林岳人「次期学習指導要領における地理必修化（地理総合）に向けた GIS の利用」千葉県高等学校教育研究会地理部会秋季研究大会，日本大学理工学部船橋キャンパス，2017年11月17日(金)．

小林優子（教育方法学）

〈論文〉

・小林優子「J. B. コナントによる動的な科学観の教授を目指した科学教育―『科学の本質』概念の成立過程に位置付けて―」『教育方法学研究』(教育方法研究会) 第18集，2017年 8 月，pp. 171－186.

〈学会発表〉

・小林優子「国際バカロレアの『知の理論』における自然科学と他の知識領域との関係―『科学の本質』を中心に―」日本教材学会，聖徳大学，2017年10月22日．

田中　怜（教育方法学）

〈論文〉

・田中怜「プランゲの学校論における反省的学習(reflexives Lernen)――生活との差異に基づく学校教授構想の展開――」『教育方法学研究』（日本教育方法学会）第42巻，2017年，pp. 23－34.

・田中怜「ドイツにおける学校論(Schultheorie)と教授学(Didaktik)の関係規定――1960年代以降の学校論の登場と展開を視点として――」『教育方法学研究』（教育方法研究会）第18集，2017年，pp. 187－208.

・田中怜「PISA 以降の一般陶冶(Allgemeinbildung)論における学校の役割規定――ベンナーによる陶冶・コンピテンシー二元論克服の試みを通して――」『筑波教育学研究』（筑波大学教育学会）第16号，2017年(印刷中)．

〈その他　受賞など〉

・「関東教育学会研究奨励賞」関東教育学会，2017年11月18日（受賞論文「ドイツにおける陶冶カノン(Bildungskanon)の相対化と再構築：『カノン問題』に対するテノルトの基礎付けをめぐって」『関東教育学会紀要』第43号，2016年，pp. 25－36)．

中嶋真弓（人文科教育学）

〈論文〉

・中嶋真弓「東京女子師範学校の教育課程変遷にみる文法教育」『愛知淑徳大学論集―教育学研究科篇―第７号』（愛知淑徳大学論集編集委員会），2017.3，27頁－41頁．

・中嶋真弓「里見義編『和文軌範』の考察：女学校使用教科書としての役割」『愛知淑徳大学論集―文学部・文学研究科篇―第42号』（愛知淑徳大学文学部論集編集委員会），2017.3，59頁－72頁．

・中嶋真弓「三土忠造編『女子国文典』の考察―『新訂中等国文典』との比較を中心に―」（上越教育大学国語教育学会『上越教育大学国語研究第31号』，2017.2，51頁－64頁．

・中嶋真弓「『活用力』を高める読解指導法―読みを深め合う板書の工夫―」『第９回全国小学校国語研究所研究発表会全国研究協力委員の実践研究』（全国小学校国語研究所）９号，2017.10.28，５頁－８頁．

・中嶋真弓「下田歌子にみる文法観の考察」（愛知淑徳大学教育学会『学び舎―教職課程研究―』，2017.3，53頁－64頁．

花園隼人（数学教育学）

〈論文〉

・花園隼人「数学的対象の美的性質を捉える方法に関する研究：『多様における統一』原理に基づく理論的考察」『筑波大学教育学系論集』第41巻第２号，2017年３月，77－91．

・花園隼人「海外の算数教育情報　子どもたちに感得させたい算数の美しさを多面的にとらえる」新算数教育研究会編『新しい算数研究』No.554，2017年３月，34－35．

・花園隼人「数学的対象の美的性質の感得を促す方法に関する事例研究：高校生ペアによる問題解決過程の分析を通して」『数学教育学論究臨時増刊』第99巻，2017年11月，33－40．

〈学会発表〉

※H. Hanazono ‘The qualitative differences in generative characteristic of the aesthetic sensibility: analysis of learners’ problem solving,’ 10th Congress of European Research in Mathematics Education (CERME10), Dublin (Ireland), 2/2/2017.

※H. Hanazono ‘A case study on students’ construction of the aesthetic qualities of mathematical objects’ 41st Annual Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education (PME41), Singapore, 20/7/2017.

・花園隼人「算数・数学科授業における『練り上げ』の効果に関する理論的考察：数学的対象の美的性質の感得を視点にして」日本科学教育学会第41回年会，サンポート高松（香川県），2017年８月29日．

・花園隼人「数学的対象の美的性質の感得を促す教材の展開に関する一考察」日本教材学会第29回研究発表大会，聖徳大学（千葉県），2017年10月21日．

・花園隼人「算数科授業における数学的対象の美的性質の感得を促す方法に関する研究：インタビュー調査を通して」日本数学教育心理研究学会秋期研究集会，愛知教育大学（愛知県），2017年11月３日．

〈その他　受賞など〉

・日本数学教育学会・学会賞（大学院生奨励部門）受賞，2017年11月．

日高　淳（教育方法学）

〈総説・科研報告書等〉

・日高淳「平成29年度 第35回多摩地区専門学校研究会報告書」東京 YMCA 医療福祉専門学校，2017年 9 月発行．総頁数28頁．

〈論文〉

・日高淳「高等教育における職業教育のカリキュラムに関する予備的考察」，『教育方法学研究』（教育方法研究会），第18集，2017年 8 月，147－170頁．

〈学会発表〉

・日高淳「理容美容専門学校における企業研修教材を用いた起業家教育の試み」日本キャリアデザイン学会，成城大学，2017年 9 月 2 日・3 日．

細矢智寛（教育方法学）

〈論文〉

・細矢智寛「G. ポリアにみられる自己調整学習の着想」，『教育方法学研究』（教育方法研究会），第18集，2017年 8 月31日，127－145頁．

〈学会発表〉

・細矢智寛・狩野悠也「自己調整学習を取り入れた授業開発：高等学校英語科の事例を通して」，日本教育工学会第33回大会，島根大学，2017年 9 月16日．

・細矢智寛「自己調整学習における教授方法：CORI（Concept-Oriented Reading Instruction）の教材分析を中心に」，日本教材学会第29回大会，聖徳大学，2017年10月21日．

〈その他〉

・荒井正剛・志村喬・細矢智寛「アラル海周辺の学校を訪ねる」，『地理』古今書院，第62巻 4 号，2017年 4 月 1 日，70－75頁．

・「カラテレン村で発見！こんなところに日本人」，『地理』古今書院，第62巻 4 号，2017年 4 月 1 日，76頁．

宮本直樹（理科教育学）

〈編著書〉

・宮本直樹「科学的探究におけるデータ解釈とその指導法」大髙泉編著『理科教育基礎論研究』2017年 6 月，協同出版，367頁，290－302頁．

〈論文〉

・宮本直樹「中学校理科におけるデータ解釈能力育成に関する基礎的研究―仮説設定後の『結果の予想』に着目して―」『東洋大学文学部紀要』（東洋大学文学部），第70集（教育学科編 LXX），2017年 3 月，59－67頁．

・宮本直樹「米国後期中等物理教科書と日本の高等学校物理教科書におけるデータ解釈の特質の比較研究」『中研紀要』（教科書フォーラム），18巻，2017年11月，54－65頁．

・宮本直樹「幼児期における科学的探究心を育成する指導法―観察のサイエンスプロセス・スキルに着目して―」『茨城大学教育実践研究』（茨城大学全学教職センター紀要），第36号，2017年11月，33－45頁．

村田翔吾（数学教育学）

〈編著書〉

・村田翔吾（2017）「第３節 算数」時事通信出版局（編）『ひと目でわかる！小学校「新学習指導要領」解説付き 新旧対照本』2017年６月，初版，時事通信出版局，343ページ，pp. 92－132.

〈学会発表〉

・村田翔吾（2017）「中学校数学科におけるメタ数学を視点とした教科内容の分析：負数の乗法を事例として」筑波大学教育学会 第15回大会，筑波大学附属坂戸高等学校，2017年３月４日.

※Murata, S. (2017) A theoretical analysis of the mathematics curriculum from the perspective metadomain: The case of the Pythagorean Theorem. *41th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education (PME41),* Singapore, 22 July 2017.

※Murata, S. (2017) A theoretical analysis of the mathematics curriculum from the perspective metadomain: The case of the Triangle Sum Theorem. *The Future of Mathematics and Mathematics Education for the Future,* Korea, 27 July 2017.

・村田翔吾（2017）「中学校数学科における三角形の内角定理の位置に関する一考察：局所的論証と体系的論証を視点として」日本科学教育学会 第41回年会，サンポート高松，2017年８月31日.

・村田翔吾（2017）「中学校数学科における円外接線の作図の位置に関する一考察：作図に関する命題の系列に着目して」日本教材学会 第29回研究発表大会，聖徳大学，2017年10月21日.

・村田翔吾（2017）「学校数学におけるメタ数学を視点とした教科内容の分析：四角形の包摂関係を事例として」日本数学教育学会 第50回秋期研究大会，愛知教育大学，2017年11月５日.

〈その他　受賞など〉

・第１回 数学教育国際ワークショップ 優秀ポスター賞，2017年７月28日.

・日本数学教育学会 学会賞（大学院生研究奨励部門），2017年11月４日.

山本高広（理科教育学）

〈編著書〉

・山本高広「第２章第４節　理科」時事通信出版局編『平成29年３月告示小学校学習指導要領完全対応　ひと目でわかる！小学校「新学習指導要領」解説付き新旧対照本』2017年６月，時事通信社，343頁，133－158頁.

〈学会発表〉

・山本高広「生物教授における推論の場面の提供―英国 GCSE 生物教科書の比較分析から―」日本科学教育学会第41回年会，サンポート高松，2017年８月30日.

《ヒューマン・ケア科学専攻共生教育学分野》

江角周子（共生教育学）

〈学会発表〉

・小野昌彦・江角周子「選択性緘黙を呈する中学生への行動療法による支援―行動アセスメントとその事例適用―」日本認知・行動療法学会第43回大会，朱鷺メッセ，2017年９月29日.

・小野昌彦・江角周子「包括的支援アプローチ適用による断続的欠席を呈する中学生への継続登校支援―不安・体力・社会性評価及び主張反応法適用条件の検討―」日本教育心理学会第59回総会，名古屋国際会議場，2017年10月７日.

桜井淳平（共生教育学／教育社会学）

〈総説・科研報告書等〉

・桜井淳平，「共生への契機としての『“排除型社会”認識』―学校と家庭における教育の可能性の探索―」飯田浩之・桜井淳平編『「共生」を実現する教育の実証的検討―「生徒調査」の結果より―（平成26～28年度日本学術振興会科学研究費助成事業 研究成果報告書）』，2017年３月，pp. 19－30.

・桜井淳平，「2010年代の教師ドラマにみる『今日求められる教師像』―社会の変化に即した学校教育のさらなる発展をめざして―」子どもの遊びと生活と文化に関する研究会編『「学校世界の探究」報告書2017』，2017年３月，pp. 1－10.

長創一朗（共生教育学）

〈学会発表〉

・長創一朗・小山田建太・高橋智子・津多成輔「「共生」を実現する教育の実証的検討――教員の「共生・共生教育」に関する意識調査の結果から」第24回日本高校教育学会，筑波大学，2017年７月22日.

・長創一朗「メリトクラシーの社会的構成にみる能力評価と習得方法の論理――大衆雑誌の「コミュニケーション能力」言説の分析を通して」第90回日本社会学会，東京大学，2017年11月４日.

津多成輔（共生教育学／教育社会学）

〈論文〉

・津多成輔，「「共生」と社会的カテゴリの脱構築の実証的検討」飯田浩之・桜井淳平編『「共生」を実現する教育の実証的研究―「生徒調査」の結果より―』筑波大学共生教育社会学研究室，2017年３月，pp. 31－46.

・津多成輔，「大学の都市部集中と大学進学機会―1990年から2015年の自県／県外進学率・収容率の変化に着目して―」『日本高校教育学会年報』日本高校教育学会，24，2017年７月，pp. 16－25.

・津多成輔，「女子高校生の性役割観と大学進学意識―自宅通学の可／不可に着目して―」『教育学系論集』筑波大学人間系教育学域，42（1），2017年10月，27－40.

〈学会発表〉

・小山田健太・長創一朗・高橋智子・津多成輔，「『共生』を実現する教育の実証的検討―教員の『共生・共生教育』に関する意識調査の結果から」日本高校教育学会 第25回研究大会発表，筑波大学文科系修士棟，2017年７月.

・津多成輔，「大学設置基準の大綱化と大学進学機会―1990・2015年の自県／県外進学率・収容率に着目して―」日本高校教育学会 第25回研究大会発表，筑波大学文科系修士棟，2017年７月.

・津多成輔，「東北地方の高校生の大学進学移動―生徒の社会関係資本に着目して―」日本教育社会学会 第69回大会，一橋大学，2017年10月.

王　厳崧（共生教育学）

〈総説・科研報告書等〉

・庄司一子・新井 雅・中井大介・江角周子・王　厳崧，「社会的絆尺度の作成と関連要因」，庄司一子（研究代表），『学校教育場面における社会的絆の形成と回復をめざす支援の検討』，平成25年度～28年度　科学研究費補助金　基盤研究（B），課題番号　25285182，2017年３月，総ページ数：111ページ，掲載ページ：pp. 74－77.

・王　厳崧，「不登校の視点から高校における生徒の支援に関する検討」，庄司一子・高橋智子・小貫衣澄（編集），『平成28年度　キャンパスエイド活動報告書』，筑波大学教育臨床学研究室，2017年３月，総ページ数：166ページ，掲載ページ：pp. 39－112.

〈学会発表〉

・王　厳崧・庄司一子（2017）.「中国の中学生用登校意識尺度の検討」日本学校心理学会第19回大会，筑波大学，2017年９月16日～17日.

・王　厳崧・庄司一子（2017）.「中国の中学生の感謝感情の検討―中国版感謝尺度の作成と検討を通して―」日本教育心理学会第59回大会，名古屋国際会議場，2017年10月７日～９日.

※Yansong Wang & Ichiko Shoji (2017).「Development of Views of School Attendance Scale for Chinese junior high school students」, 39th International Annual Conference of the International School Psychology Association, July 19–22, 2017, Manchester Metropolitan University, Manchester, UK.